中小企業地域資源
活用促進法に基づく

ふるさと名物
Furusato Meibutsu

北海道豊浦町
が応援するふるさと名物

◎北の海町の産業を下支えする
産業用機械と関連加工技術

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

ふるさと名物
Furusato Meibutsu

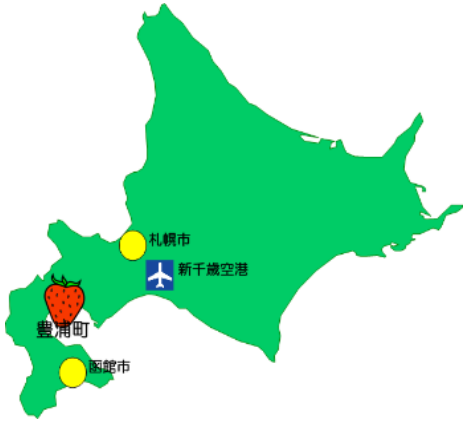
応援宣言

平成31年3月6日

地域の
プロフィール

いい人 いいまち 明日を拓く

～北海道豊浦町～



豊浦町は、北海道の南西部、噴火湾と呼ばれる内浦湾に面しており、陽光にきらめく海岸線からは対岸の駒ヶ岳の眺望が美しい風光明媚な町です。道内では古くからイチゴの産地として知られる一方、噴火湾におけるホタテ養殖発祥の地でもありますが、ここに至った道のりは大変険しく、現代に残る様々な機械や道具、技術はその賜物といえます。

生産者や技術者をはじめとした先人たちの苦労により農業・漁業は町の経済・雇用を支える基幹産業となっています。

地域資源の内容

1

主な地域資源

- **豊浦イチゴ**
- **ホタテガイ**
- **豚**
- **産業用機械と関連加工技術**

◆町の三大特産品「豊浦イチゴ」、「ホタテガイ」、「豚」、生産体制をサポートする産業用機械と関連加工技術

〇豊浦イチゴ

昭和１０年に苗の植付けが始まり、病害虫の発生、連作障害などの困難を乗り越え、平成１９年に地域団体商標に登録されました。

〇ホタテガイ

昭和３７年にカレイの底網に偶然稚貝が着いたのをきっかけに養殖に取り組み、平成２８年には養殖５０周年を迎えました。

〇豚

昭和３６年から養豚の多頭化飼育に力を入れ、現在、町内の２つの農場でＳＰＦ豚（特定の病原菌を持たない）を生育しています。

〇産業用機械と関連加工技術

三大特産品をはじめ農産物や水産物の生産性の向上等に密接に関わり、世代が変わっても技術や精神は受け継がれています。

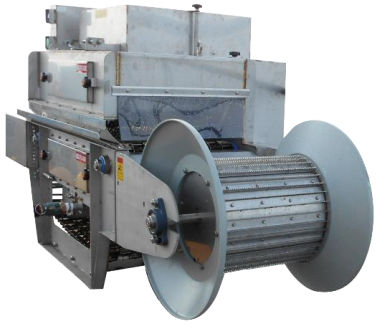
2
ふるさと名物

◆北の海町の産業を下支えする産業用機械と関連加工技術

　農業や漁業を代表する生産物である三大特産品の今日の発展は、その時代の困難を道具や機械、技術の改良・開発により克服したうえに成り立っており、町の経済・雇用を支えるまでに成長を遂げました。
　現場作業での困りごとを現場に出向いて解決する、その精神は現在も若い技術者に脈々と受け継がれ、今後も地域・産業を支え続けていきます。

■自動耳吊機
ホタテガイの稚貝に自動で穴を開け、ピンを通しロープに固定する。

■シェルクリーナー
ホタテガイの出荷時に付着するザラボヤやイガイなどの雑物を洗浄、除去する。



■沖洗い機
養殖中のホタテガイに付着し成長を阻害するザラボヤなどを船上で洗浄・除去する。

3

独自の支援策

◆各種支援制度

豊浦町では、起業化促進や雇用創出などに対し次の支援メニューを用意しています。

○起業化促進奨励金
町内で新たに起業、また、新たな分野で事業を開始する場合、奨励金を支給する。

○雇用創出育成奨励金
町内事業所が、町内に居住、または居住見込みの方を常用労働者として、新たに雇用する場合、奨励金を支給する。

○ふるさと定住就職奨励金
Ｕターン、Ｉターンにより町内事業所に就職した方に奨励金を支給する。

○生産性向上特別措置法に基づく先端設備等導入計画の認定
町内外の各関係機関と連携し、利用を希望する町内事業所を支援する。

町長からのメッセージ

豊浦町は、自然からの恵み豊かな内浦湾の名が示すとおり、ホタテをはじめ豊富な魚介類や初夏の風物詩である豊浦いちご、豚肉や牛肉など農業・漁業振興により町を大きく発展させてきました。

しかし、今日があるのは、先人たちが厳しい環境の中で失敗を重ねても、決して諦めることなく、知恵を出し合い創意工夫しながら技術を磨き、様々な道具や機械を改良、開発してきた結果であることは、町史で紐解くことができます。

今また人口減少という大きな困難を町民一丸となって乗り越え、次世代が夢と希望に満ち溢れるまちづくりを推進するため、ふるさと名物を応援してまいります。

豊浦町長　村井　洋一